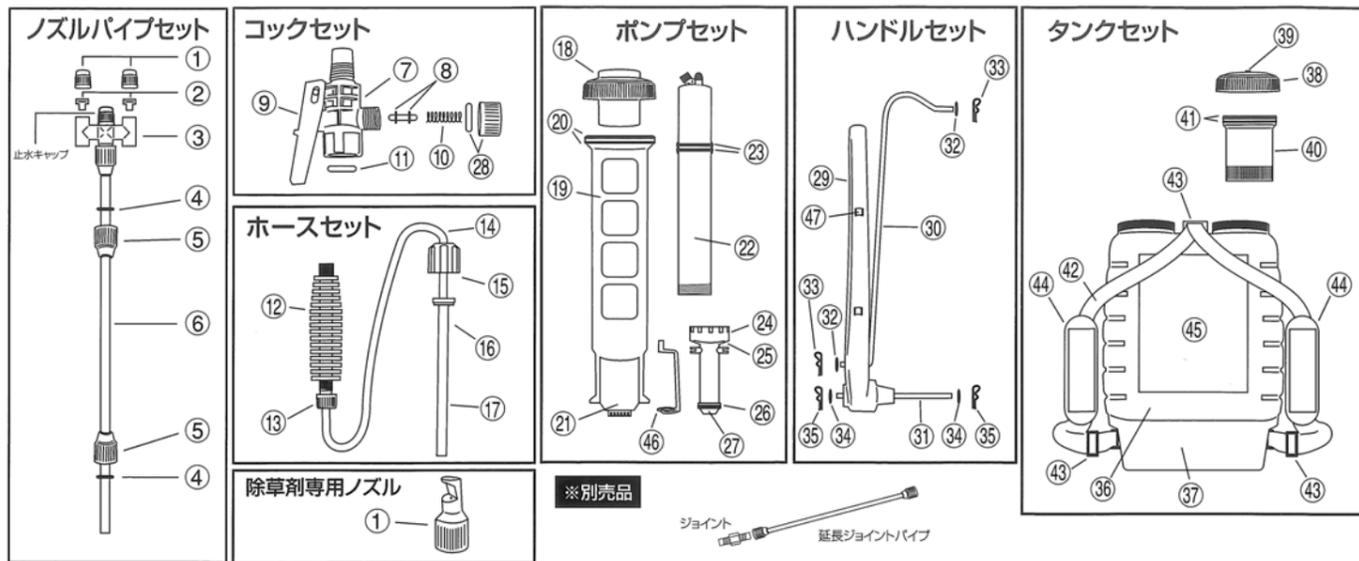


分解図



パーツリスト

セット	No.	部品名	セット	No.	部品名	セット	No.	部品名
ノズルパイプ	1	ノズルキャップ	ホースパイプ	12	グリップ	ハンドルセット	29	ハンドル
	2	ノズル駒(虫)		13	グリップ・ホース用キャップ		30	ピストン支柱
	3	ジョイント(二頭口用)		14	ホース		31	ハンドル支柱
		二頭口用止水キャップ		15	ホースキャップ		32	ピストン支柱止W
	4	パイプPK		16	タンク・給水接続PK		33	ピストン支柱止割りピン
	5	アジャストナット		17	給水ホース		34	ハンドル支柱止W
コックセット	6	ノズルパイプ	18	ポンプキャップ	35	ハンドル支柱止割りピン		
	7	コック	19	外側ポンプ	36	タンク		
	8	コック弁Oリング	20	// ポンプOリング	37	タンク台座		
	9	レバー	21	// ポンプ弁PK	38	注入口キャップ		
	10	コックSP	22	内側ポンプピストン	39	注入口キャップ(空気弁PK)		
	11	コックOリング	23	// ポンプOリング	40	濾過器		
	28	コックキャップ(PK付)	24	// ポンプ弁カバー	41	濾過器Oリング		
			25	// ポンプ弁カバーOリング	42	バンド		
			26	// ポンプ弁型Oリング	43	バックル		
			27	// ポンプ弁カバー弁PK	44	肩パット		
			46	22ポンプ・スライド止め	45	背パット		
		47	ノズルパイプホルダー					

故障と修理

内容	原因	処置
●ポンプハンドルの動きが悪い	▼ワン型PK⑩の油切れ	▲⑩のO型PKにマシンオイルか機械油を少量塗布する。
●シリンダー⑫の液漏れ	▼ポンプ⑫Oリングにキズが劣化	▲ポンプ⑫PKを新品に交換する
●圧力がかからない	▼ネジ部より空気が漏れる ▼⑭⑮⑯のPKの劣化 ▼逆止弁のゴミ詰まり、または劣化、老化	▲各ネジ部を締めつける ▲新品と交換する ▲掃除する
●噴霧の出が悪い	▼加圧不足 ▼ネジ部より空気が漏れる ▼ノズルキャップ①②のゴミ詰まり	▲加圧する ▲各ネジ部を締めつける ▲掃除する
●液が止まらない	▼レバーコックのゴミ詰まり ▼レバーコックのパッキンの劣化、老化	▲掃除する ▲レバーコックを交換する
●タンクキャップより液漏れ	▼⑳㉑のOリングPK劣化 ㉒㉓キャップの締めが弱い	▲PK交換、キャップをしっかり締める

お問い合わせ

修理についてのご相談や部品のご注文は、お買い上げの販売店、または下記までご依頼下さい。

マルハチ産業株式会社

東京都港区芝4丁目12番2号
TEL 03-5443-8611 FAX 03-5443-8614
E-mail:maruhachi@muc.biglobe.ne.jp

No.2005-6

※仕様は予告なく変更することがあります。



病害虫の防除に

下ハンドル式半自動型噴霧器

背負式噴霧器・オアシス12ℓ取扱説明書

この度はお買い上げいただき、誠に有難うございます。
ご使用前に、この取扱い説明書をよくお読みになり、故障や事故を未然に防止し、又永くお使いいただけるよう正しくご使用下さい。

#12000(12ℓ) 延長パイプ(二段式) 二頭口 除草剤ノズル付き

特長

ハンドルが両サイド(左右)に装着でき、
左利きの方にも使いやすいよう設計されています。

この取扱い説明書は、お使いになる方がいつでも見られる場所に大切に保管してください。

安全上のご注意

- 危険** :この表示を守らなかった場合、人が死亡、又は重症を負う可能性が高い操作手順と状況
- 警告** :この表示を守らなかった場合、人が死亡、又は重症を負う可能性が高い操作手順と状況
- 注意** :この表示を守らなかった場合、人が、けがや火傷を負う可能性が高くなり、本器の故障の原因にもなります。

いずれも安全に関する項目です。厳守してください。

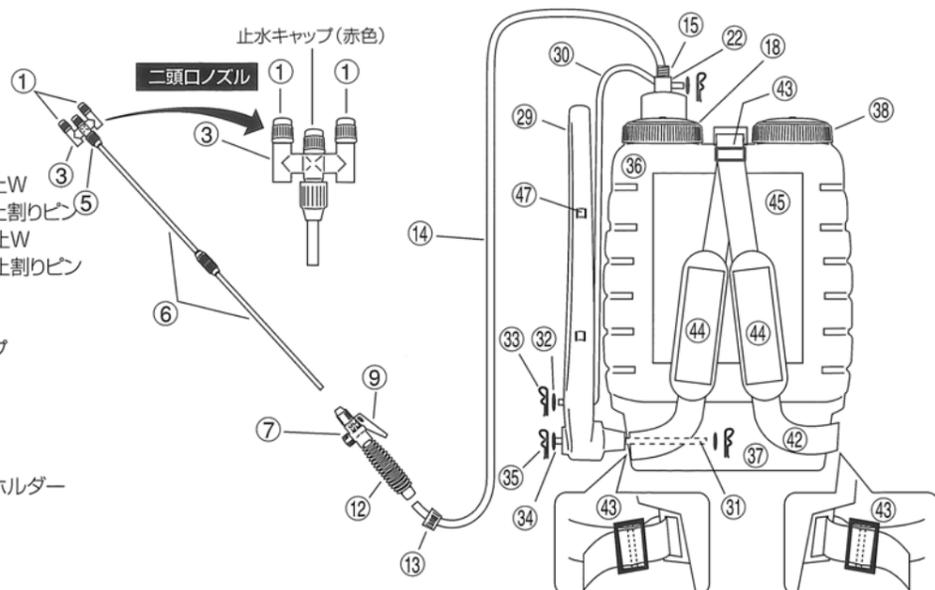
使用上のご注意

- 危険**
 - ・直射日光のあたる場所に長く置くと、本器の材質が劣化し、破裂する恐れがあります。
 - ・タンク部にキズをつけたり、落としたり、ぶつけたり、強い衝撃を与えないで下さい。
 - ・火や高熱のそばに置かないで下さい。又、お湯を入れないで下さい。
 - ・噴霧器指定の薬品以外や、酸性、アルカリ性の液体、塗料、ベンジン、ガソリン、シンナー等の溶剤等は、絶対に使用しないで下さい。爆発する恐れがあります。
 - ・種類の違う薬品が混合されると、危険ですでおやめ下さい。

(上記の項目を守らないと破裂や、思わぬ事故をまねく恐れがあります。)
- 警告**
 - ・ご使用する薬品は規定通りに薄めてください。高濃度の薬品は植物をいため、又本器の性能も損ない、思わぬ事故の原因になります。使用前に、各部のネジ部にゆるみがないか、確認して下さい。
 - ・作業する場合、薬品の付着や吸入を防ぐため、露出部の少ない保護衣を着用して下さい。
- 注意**
 - ・本器を改造したり、本書に説明のない分解や修理はしないで下さい。
 - ・薬品は、種類を限定してご使用下さい。
 - ・本器の寿命を永く保つため、又パーツの損傷を防ぐため、使用後は必ず真水で1~2分噴霧して、薬液を洗い流して下さい。

各部の名称

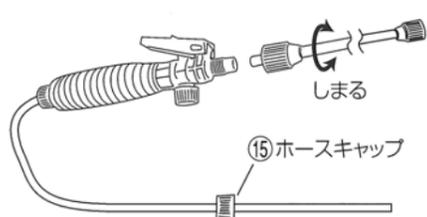
- ①ノズルキャップ
- ③ジョイント
- ⑤アジャストナット
- ⑥ノズルパイプ
- ⑦コック
- ⑨レバー
- ⑫グリップ
- ⑬グリップホース用キャップ
- ⑭ホース
- ⑮ホースキャップ
- ⑱ポンプキャップ
- ⑳ポンプピストン
- ㉑ハンドル
- ⑳ピストン支柱
- ㉑ハンドル支柱
- ㉒ピストン支柱止W
- ㉓ピストン支柱止割りピン
- ㉔ハンドル支柱止W
- ㉕ハンドル支柱止割りピン
- ㉖タンク
- ㉗タンク台座
- ㉘注入口キャップ
- ㉙バンド
- ㉚バックル
- ㉛肩パット
- ㉜背パット
- ㉝ノズルパイプホルダー



使用方法

1 ノズルを組み立てる

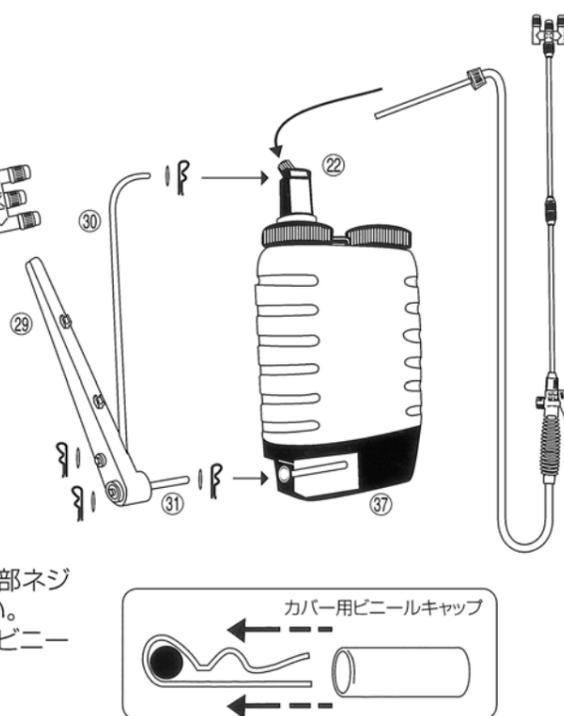
- ノズルパイプを取り付ける。
- 各部のナットはしっかり取り付ける。
- ホース・ノズルパイプをセットする。



- ㉑と㉒をセットする
- ㉑と㉓をセットする
- ㉓を㉔へセットする
- ㉒を㉕へセットする

2 ホース、ノズルパイプセットを取り付ける

- ホース、ノズルパイプセット(ホースキャップ⑮)を㉒ポンプピストン部ネジに取り付けてしっかりと締め付けて、液漏れしないようにしてください。
- ㉓㉔の止め割りピンをセット後は、安全のため、添付してありますビニールチューブをセット後に被せてください。



3 タンクに薬剤を入れる

- ⚠️注意 前回使用した薬剤が、残っていないか確認してください。化学反応をおこし、有毒ガスが発生する危険があります。
- ⚠️注意 別の容器で、薬剤を十分溶かしてからタンクに入れてください。

溶かす薬剤の目安表

水	薬剤		
	500倍に うすめるとき	1000倍に うすめるとき	2000倍に うすめるとき
1リットル	2cc	1cc	0.5cc
4リットル	8cc	4cc	2cc

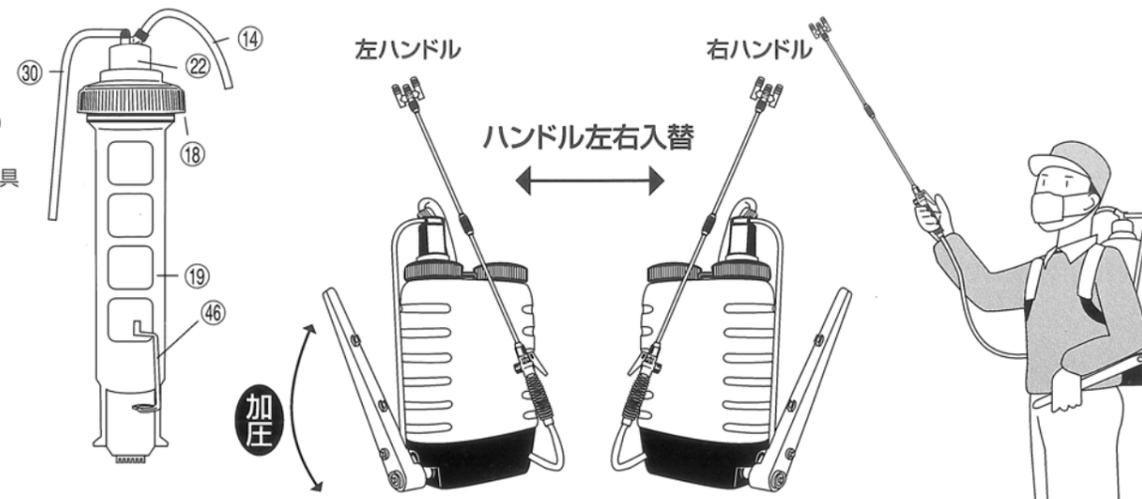


- 注入口キャップを外して薬液をタンクに入れて下さい。
- 加圧は中ポンプに一定量しかかかりませんので、圧力が弱まりましたらハンドルの上下操作で圧力をゆっくりかけて下さい。(噴霧量が持続します)



ポンプセット

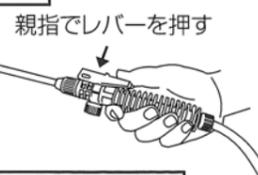
- ⑭ホース
- ⑱ポンプキャップ
- ⑲外側ポンプ(シリンダー)
- ㉒ポンプピストン
- ⑳ポンプ⑳スライド止治具
- ㉑ピストン支柱



- ⚠️注意 ●ポンプセットのパーツ入れ替えや、ハンドルの左右の入れ替えにはパーツの紛失やセットの順番を間違えないように組み立てて下さい。

4 散布する (使用前には必ず各ジョイント部分のナットをしっかり締め付けて下さい)

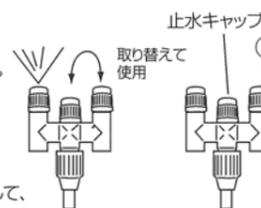
断続散布



一定の角度から遠方へ散布するとき



二頭口ノズルの特徴



除草剤専用ノズルを使用するとき

取り付けである④ノズルと⑤ノズルをはずして、⑥の止水キャップを⑥のかわりに取り付け、⑦のかわりに除草剤ノズルを取り付けてください。



- ⚠️注意 ●散布の際は薬液が対象物以外にかからない様、風向きや周囲の状況に十分注意してください。
- 除草剤の散布には、目的の面積以外の幅にかからないように、一定の角度にノズルを調整してください。(他の植物を枯らすことがあるため)
- 霧の勢いが弱くなれば再び加圧してください。
- 霧が不調の場合は、ノズルキャップをはずして付着しているゴミを洗い流してください。

5 使用後はポンプの圧力を抜く

- 作業が終わればタンクの中のポンプに溜まっている圧力(液)を噴口より出なくなるまで開放して下さい。(各部のパーツの磨耗を防ぎます)

完全になくなるまで圧力を抜いて下さい。

- ⚠️警告 ポンプの耐久性を守るため、加圧した状態のまま放置しないで下さい。

- ⚠️警告 けがをする危険があるのでポンプキャップ等をはずす際は必ず先にポンプ内の水圧力を抜いてください。

- 使用後はタンク内の薬液を抜き、十分に洗い流してください。薬液が残っていると本器の性能を損ない、思わぬ事故の原因となります。また、他の薬品と誤って混同すると危険です。
- 保管時は必ずタンク内の圧力を逃がし、直射日光を避けて保管してください。直射日光の当たる場所へ長時間放置しておいたり、圧力のかかったままにしておきますと、パーツの破損や、タンクが劣化する恐れがあります。

